

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自分のコンディションを把握し、病気と向き合う力、目標の実現に向けて取り組む力、
自分を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心をはぐくむ学校
.....5つの輪 つながりあって ひとつの輪.....

- 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に立ち向かう心を育てる。
- 病気療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自分の目標に向けて進もうとする意欲を育てる。
- さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てる。
- 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努める。

2 中期的目標

1 病弱教育における切れめのない支援の推進

(1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。

(2) ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。

※学校教育自己診断（教材や教え方などが工夫されわかりやすい）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持（児童生徒 項目2 R4 95% R5 79% R6 86%）

※学校教育自己診断（コンピューター等の情報機器が活用されている）肯定的評価 R9年度 95%以上を維持（教職員 項目20 R4 98% R5 70% R6 88%）

※学校経営推進費事業（R7）「リ・コネクトアカデミー・・・病気療養児童生徒への切れめのない学びをICTとメタバースで再びつなぐ・・・」

3年め（R9）の評価指標：

① 退院支援×ICT活用：学校教育自己診断【児童生徒】「先生は周りの人とのつながりに気を配ってくれている」肯定的評価 R9 95%以上維持（R4 88% R5 82% R6 96%）

② アバターロボットの活用：学校教育自己診断【児童生徒】「授業は教材や教え方など工夫されわかりやすく楽しい」肯定的評価 R9 90%以上維持（R4 95% R5 79% R6 86%）

③ メタバース空間の活用：学校教育自己診断【教職員】コンピューター等の情報機器が、授業などで活用されている」肯定的評価 R9 90%以上維持（R4 98% R5 71% R6 88%）

【児童生徒】「メタバースでの授業が将来の学びに影響したと思う（5段階）」

【教員】「仮想空間の活用が現実の教育と融合してきた実感があるか（自由記述）」等

(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。

※学校教育自己診断肯定的評価 R9年度 70%以上をめざす。（児童生徒 項目4 R4 65% R5 63% R6 64%）

(4) 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。

※学校教育自己診断（学校は病棟と連携して教育活動を行っている）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持（病院関係者 項目5 R4 87% R5 91% R6 89%）

※学校教育自己診断（学校は前籍校や病院と連携して指導にあたっている）肯定的評価 R9年度 100%をめざす。（保護者 項目11 R4 100% R5 97% R6 97%）

2 病気のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承

(1) センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。

※学校教育自己診断（地域支援は十分に行われている）肯定的評価 R9年度 80%以上をめざす。（教職員 項目26 R4 63% R5 90% R6 85%）

(2) 本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。

(3) 教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。

(4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。

3 安全・安心な学校づくり

(1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、部署ごとに最適な学校行事を計画し進める。

※学校教育自己診断（行事は、楽しく参加できるよう工夫されている）肯定的評価 R9年度 85%以上をめざす。（児童生徒 項目10 R4 83% R5 79% R6 90%）

(2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。

※学校教育自己診断（人権尊重に基づいた指導が行われている）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持する。（教職員 項目15 R4 90% R5 96% R6 86%）

(3) 危機管理体制（個人情報管理の適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。

※学校教育自己診断（個人情報に関する管理システムを適正に活用している）肯定的評価 R9年度 95%以上を維持する。（教職員 項目18 R4 95% R5 87% R6 92%）

(4) 災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。

※学校教育自己診断（事故・災害時等に迅速に対処できるよう役割分担が明確化されている）肯定的評価 R9年度 80%以上をめざす。（教職員 項目24 R4 72% R5 62% R6 91%）

(5) ICTを活用した効率的な会議運営を進めるとともに、本校・分教室間の連携を深め、同僚性を高めることで働きやすい環境を整備する。

※ストレスチェック健康リスク R9年度 100 をめざす。（R6 109）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 7年 11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※本校は児童生徒、保護者、教職員、医療関係者を対象に実施【児童生徒】</p> <p>キャリア教育に関する項目では、今年度 69.8%と中期的目標の 70%以上に近い評価である。在籍期間が短い病弱支援学校では、継続的な取り組みが行いにくい項目であったが、今年度は全校的に自立活動とキャリア教育の観点から教育活動を行う取り組みが評価されたと考える。</p>	<p>【第1回 6月5日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刀根山支援学校の教員が地域校との繋がりをもってくれているのは大変ありがたい。地域校との交流がうまくなされ連携してほしい。 ・キャッチフレーズの「5つの輪」という言葉が教員の中から出てきたことが素晴らしいと思う。また、教材を共有できる「ふしぎなポッケ」も刀根山支援にかかわらずもっと広げてほしい。

府立刀根山支援学校

<p>【保護者】 機関連携のコーディネートにあたる項目では、今年度肯定率 100%であった。今後もケースカンファレンスや退院前カンファレンスなど地域校との連携の機会を大切にしていきたい。</p> <p>【病棟関係者】 学校と病院との連携に関わる項目ではめざす肯定率は 90%であった。今年度は 85.1%と昨年より 5.1%上昇した。今後も病院の多くのスタッフに連絡会の存在を知ってもらい、学校と病院との連携に努めていきたい。</p> <p>【教職員】 同僚性に関わる項目（教職員・85.7%・32.7%・上昇）については、昨年度から引き続き、同僚性を育むための研修や、会議などの集合開催等、他部署・分教室の教職員との交流機会を設けたことが評価につながったと考える。チーム刀根山支援学校として、全教職員が協力しようとする雰囲気を作られるように、次年度以降も継続的に取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の中でキャリア教育の内容を入れ、その評価をもとに授業や子どもたちの生活の中で生かしてほしい。 【第2回 11月6日】 ・ 当事者の声を聞くことは大切。退院後の自宅療養期間は、大きな課題のひとつ。医療の進歩に学校制度が追いついていない。いろいろな方面から考えていくことが大事。 ・ 退院前カンファレンスは、地域校にとって医療面の配慮を聞くことができる貴重な機会。子どもの状態について早期の共有ができるよう、日常からの連携をさらに深めてほしい。 【第3回 2月5日】 ・ 入院中（在籍中）の不安は、学校生活での子どもの成長を先生に教えてもらうなど、学校とコミュニケーションをとることで軽減された。 ・ 外部コンクールへのチャレンジについてぜひ進めてほしい。 ・ 復学支援について、退院時、地域校の引き継ぎ等によって、復学への不安が軽減した。 ・ 「学校は楽しい」という評価指標については、自己肯定感の向上と結びつくように、質問の仕方を工夫する必要がある。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 切れ め の な い 支 援 の 推 進	<p>(1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。</p> <p>(2) ICT を積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。</p> <p>(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 「個別の指導計画」を活用し、在籍期間の個々の目標を明確にして教育活動を行い円滑な復学につなげる。 イ 授業力の向上をめざした教員研修の充実 ・ 全校教科研修会（年2回） ・ 部署研修 ・ 大阪府教育センター実施の研修への参加 ・ 初任者研修等に係る研究授業を実施し教員全体の資質向上に資する。 ・ 枚方市、豊中市教育委員会実施の教科に関する研修参加</p> <p>(2) ア ICT を活用した社会見学や部署間交流の推進 ・ WEB 校外学習 ・ ロボットプログラミング選手権参加 ・ アバターロボット、メタバース活用 ※ 学校経営推進費事業（R7） 「リ・コネクタアカデミー・・・病気療養児童生徒への切れめのない学びを、ICTとメタバースで再びつなぐ・・・」 イ 校内 ICT 研修会の実施</p> <p>(3) ア 進路を見通したキャリア教育と日常におけるキャリア教育を意識して進める。 （設定キャリア教育とキャリア教育に関連した指導の推進） イ 「個別の教育支援計画」を活用し、本人、保護者、教員が同じ方向性をもって将来の社会参加に向けた教育活動を進める。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断（児童生徒）「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 85%以上を維持する [86%] イ 学校教育自己診断（教職員）「研修は幅広い教育実践に役立つような内容となっている」肯定率 90%以上をめざす [89%]</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断（児童生徒）①「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定率 90%以上を維持する [90%] ②「1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 70%以上をめざす [63%] ③「授業は教材や教え方など工夫され、わかりやすく楽しい」肯定率 90%をめざす [86%] イ 学校教育自己診断（教職員）「情報機器が授業などで活用されている」肯定率 90%以上をめざす [88%]</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断（教職員）「キャリア教育の視点をもって授業づくりをしている」肯定率 80%以上をめざす [新規] イ 学校教育自己診断（教職員）『「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について本人・保護者のニーズをふまえて作成している』肯定率 95%以上をめざす [94%]</p>	<p>(1) ア 教育相談や前籍校との連携を通して在籍期間の個々の目標を明確にして各部署の教育活動を進めた。訪問教育部では「訪問スタンダード」を活用し、短期在籍の重複児童生徒について教育活動を進めた。 [94%] (◎) イ 具体的な取組計画に記載の研修について予定通り進め、必要に応じて伝達講習を実施した。 [95%] (◎)</p> <p>(2) ア ICT を活用して大阪・関西万博『パナソニック ノモの国』ライブ見学、『イタリア館』ライブ交流、キックマン WEB 工場見学等を行った。児童生徒は、事前に質問などを準備し積極的に参加することができた。学校経営推進事業『リ・コネクタアカデミー』で、メタバース空間を通してロボットプログラミング大会に向けての部署間交流を行った。部署を超えて応援し合う姿が見られた。 ① [85%] ② [84%] ③ [94%] (◎)</p> <p>イ システム改修に併せた Web 会議システムの研修や AI 活用研修、プレゼンテーションソフト研修等を行い、個々の授業への活用の一助とした。 [93%] (○)</p> <p>(3) ア 本校におけるキャリア教育の取組について、自立活動と併せ整理した。学習支援部と研修支援部が連携し、各部署での活動を進めた。日常の授業におけるキャリア教育と自立活動について、教員が同じ方向性をもって取り組む第一歩となった。 [96%] (◎) イ 転入当初、「入院中の学校生活」について本人・保護者がイメージできるよう、在籍期間に希望をもって過ごせるよう各部署で丁寧に教育相談を進めた。在籍中、保護者と会う機会があれば、設定した懇談会に限らず児童生徒の学校での様子を伝え次につながるよう努めた。 ・ 学校運営協議会委員（保護者）のご意見 学校生活での子どもの成長を先生に教えてもらうなど学校とコミュニケーションをとることで在籍中（入院中）の不安を軽減することができた。 [93%] (○)</p>

府立刀根山支援学校

	(4) 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。	(4) ケース会議（退院時カンファレンス）を病院と連携し円滑に進める。 【連絡会の主な内容】 ・現在の児童生徒の状態 ・今後の学校生活で配慮すること（登下校、在校時間、給食、服薬、配慮がある教科、清掃活動、学校行事への参加など） ・緊急時の対応 ・本校での様子（学習進度、自立活動等）	(4) 学校教育自己診断（病院関係者）「病院と学校の連絡会は役に立っている」肯定率90%をめざす〔80%〕	(4) 各部署でケース会議を予定通り進めることができた。退院後、前籍校が児童生徒を受け入れる際、不安が軽減されるよう日常からの連携をさらに深めていきたい。 ・学校運営協議会委員（地域住民）のご意見 退院直前の連絡会だけでなく在籍中の情報共有をさらに進めてほしい。〔85%〕（△）
2 専門性の向上や支援の継承	(1) センターの機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。 (2) 本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。 (3) 教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。 (4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。	(1) 病院と連携した公開セミナーの実施 【訪問】筋疾患、心疾患等 【阪大】病気療養児のための研修会 【滝井】滝井セミナー 【精神】輪になって支えよう研修会 (2) 地域支援の取り組み ・地域校への巡回相談の実施 ・研修講師派遣 (3) ア 実践報告集「とねやま8号」をまとめる。 ・12月までに原稿を収集し年度内に発行する。 イ 共有できる教材の蓄積を図る。 “ふしぎなポッケ 刀根山支援” (4) 令和7年度 第61回 近畿・東海・北陸地区病弱虚弱教育連盟 研究協議会 大阪大会を事務局校として円滑に進める。	(1) オンライン等も活用し、公開セミナーの総参加者数600人以上を維持する〔676人〕 (2) 学校教育自己診断（教職員）「地域支援は十分に行われている」肯定率90%以上をめざす〔85%〕 (3) ア 実践報告集「とねやま8号」を3月末までに作成し、学校ホームページに掲載する。 イ 学校教育自己診断（教職員）「児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている」肯定率100%を維持する〔100%〕 (4) 定例理事会 総会・研究協議会（大阪大会）次年度への引継ぎ 【主な引継ぎ事項】 ・年3回の理事会運営 ・大阪大会運営（8月実施） ・会計業務	(1) 予定した公開セミナーを予定通り実施し、合わせて700人の参加者があった。在籍している児童生徒の前籍校の教職員にも多数参加いただいた。また、精神医療センター分教室が行った枚方市教員を対象とした研修会では、地域における支援教育の課題を共有することができた。〔691人〕（◎） (2) 今年度は、児童生徒の実態によって復学先が前籍校ではなく支援学校に転校するケースが複数あった。どのケースも本人・保護者の思いを受け止め、関係機関と密に連携しながら進めた。 筋ジストロフィー症：巡回指導4回 心疾患：地域支援1回 学校見学：1回 研修講師：5回 ・学校運営協議会委員（保護者）のご意見 退院後に係る地域校での引継ぎや「これだけ（自宅療養中に）やっておけば大丈夫」と言って分教室の先生に渡されたプリントは、復学への不安が軽減した。〔89%〕（○） (3) ア 実践報告集「とねやま8号」を年度内に発行した。（○） イ 7月、12月の教材教科研究会を経て、各教科で共有フォルダに教材を蓄積している。〔98%〕（○） (4) 事務局校として、定期理事会の運営と近病連大阪大会の開催を進めた。 理事会では、昨今の病弱支援学校の事情に併せ、地区大会の運営や会費についての見直しを行った。大阪大会では、大阪精神医療センターの医師によるゲーム依存に関する講演をしていただいた。（◎）

府立刀根山支援学校

<p style="text-align: center;">3 安全・安心な学校づくり</p>	<p>(1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、部署ごとに最適な学校行事を計画し進める。</p> <p>(2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。</p> <p>(3) 危機管理体制（個人情報適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。</p> <p>(4) 災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。</p> <p>(5) ICT を活用した効率的な会議運営を進めるとともに、本校分教室間の連携を深め、同僚性を高めることで働きやすい環境を整備する。</p>	<p>(1) 従来の学校行事の改善と分教室ごとの新たな学校行事の実施に向け検討していく。また実施した行事を発信していく。</p> <p>(2) ア 病弱教育における自立活動の取り組みについて確認し、本校・訪問教育部、4分教室で計画して進める。 （設定自立活動と自立活動に関連した指導の推進） イ 人権教育に関する研修を年間3回実施し、人権意識の向上につなげる。</p> <p>(3) 想定される学校事故について注意喚起しながら危機管理を進める。 ・年度当初に個人情報の取り扱いについて周知し、本校の管理体制を確認する。 ・記録簿の不定期チェックを行う。 ・ヒヤリハット事例の共有</p> <p>(4) ・防災マニュアルについて年度当初に周知し、各自の役割を確認する。 ・部署ごとの避難訓練を実施する。 ・災害備蓄品の管理・運用を進める。</p> <p>(5) ・校内の会議を対面、オンラインで計画的に実施する。 オンライン会議を効率的に行うとともに、対面での会議を必要に応じて計画的に行い、お互い会って協働する機会を設定することで、同僚性の向上につなげる。</p>	<p>(1) ①学校教育自己診断（児童生徒）「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定率 85%以上を維持する〔90%〕 ②学校教育自己診断（教職員）「児童生徒が楽しく行事に参加できるよう工夫・改善を行っている」肯定率 85%以上を維持する〔98%〕</p> <p>(2) ア 自立活動に関する研修を本校・訪問教育部、4分教室で学期に1回実施する。 イ 学校教育自己診断（教職員）「人権教育に関する研修に参加し、人権意識の向上に努めている」肯定率 90%以上をめざす〔86%〕</p> <p>(3) 学校教育自己診断（病院関係者）「問題が起こったと際、学校は迅速に対応することができている」肯定率 90%以上を維持する。〔95%〕</p> <p>(4) 学校教育自己診断（教職員）「防災教育・安全指導は十分行われている」肯定率 80%以上を維持する。〔88%〕</p> <p>(5) ストレスチェック健康リスク 105 をめざす。〔109〕 【対面】（月） ・全校職員会議 4、5、7、8、12、3 ・全校人権研修 7、8、12 ・全校教材研修会 7、12 ・運営委員会 毎月 【オンライン】 ・全校WEB連絡会 6、9、10、11、1、2 ・安全衛生委員会 毎月 ・分掌会議（必要に応じて対面）</p>	<p>(1) 以下の取組に加え、音楽科と児童生徒支援部を中心に全校WEB音楽会を行った。各部署での音楽の取組を校内オンライン上で発表した。 【全校】WEB校外学習（天王寺動物園）、ロボットプログラミング大会、大阪・関西万博WEB参加 【各部署】運動会、学習発表会、作品展、新入生を祝う会、季節のお楽しみ会、フライトシミュレーター体験など ①〔85%〕②〔98%〕（○）</p> <p>(2) ア 本校における自立活動の取組についてキャリア教育と併せ整理した。5月、研修支援部で年間計画を協議し、その後各部署で学期に1～2回、キャリア教育と自立活動について研修の機会を持った。日常の授業でも意識して取り組むよう進めた。（○） イ 【第1回・7/22】「病気の子どもの権利について」 講師：副島 賢和 様 【第2回・8/28】同和問題 動画視聴・グループ協議 【第3回・12/25】センター研修伝達研修・性的マイノリティ 動画視聴 どの回もほぼ全員が参加し、人権問題について真摯に取り組む思いを新たにされた様子がうかがえた。〔91%〕（○）</p> <p>(3) 転出書類の送付先のミスや危険を伴う教材（家庭科のマチ針）の一時紛失など校内で起きた事故について全校で共有し、また正しく反省し再発防止に努めている。事故を起こした後の病棟への連絡、保護者説明などの教員の動きについても確認した。〔92%〕（○）</p> <p>(4) 年度当初に防災マニュアルを周知し、有事の際の各自の役割を確認した。部署ごとに防災教育、避難訓練に取り組んだ。大阪 880 万人訓練に併せ、室長・部長と連携し、児童生徒と教員の安否確認訓練を行った。また、WEB職員会議の際に教頭によるミニ防災研修を行った。〔91%〕（○）</p> <p>(5) 対面で行う全校職員会議を1回増やし、合わせて同僚性向上研修を行った。「エンゲージメントカード」を活用したグループワークを実施し大変好評だった。 運営委員会はオンラインで行っていたものをすべて対面にした。オンライン会議ではなかったつぶやきや合間の交流が効果的だった。 ストレスチェック健康リスク〔112〕（△）</p>
--	---	---	--	---